

熱帯の有用材 (2)

緒 方 健

オクメ (Okoumé)

学名: *Aucoumea klaineana* Pierre (カンラン科)

オクメはアフリカ材の中で最もよく知られた樹種のひとつであるが、その分布域は熱帯西アフリカのせまい地域に限られている。すなわち赤道直下のガボンとその周辺地域（赤道ギニア、カメルーン南端部、コンゴの沿岸地域）だけに天然にみられる。しかし、この地域にはきわめて多く生育し、木材の産出量からいってガボンの最重要樹木であるばかりでなく、全アフリカ材の中でも輸出量が第1位を占めてきた。

オクメがはじめてヨーロッパに知られたのは1885年にベルギーのアントワープで開かれた博覧会からである。このとき材の見本が出品されたがカンラン科の樹木らしいというぐらいで、まだ学名も定まっていなかった。その後(1894)、分類学者のPierre がくわしく調べ、この樹木のために新属 *Aucoumea* を設立し、標本採集者のKlaine 神父に因んで学名を *Aucoumea klaineana* とした。

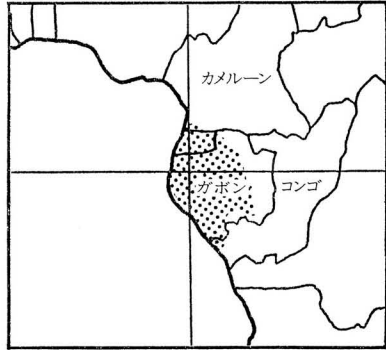
木材の輸出は1902年にヨーロッパへ5,000トン出荷されたのが最初で、以後第1次および第2次大戦中の中断はあったが増加をつづけ、1965年には約84万トン(約140万m³)に達している(輸出量第2位はアオギリ科のObecheで、1965年には約110万m³となっている)。木材の取引名としては現地名に由来するOkouméが最も一般的であるが、このほかGaboon, Gabun, Gaboon Mahoganyなども用いられる(ただしオクメはセンダン科のマホガニーとは何の関係もないから、この最後の名称はまぎらわしく、好ましいとはいえない。ラワンをアメリカ市場でPhilippine Mahoganyというのと同様である)。現地名としてはOkoumé, Angouma, Bengouma, Moukoumi, Koumi, N'koumi, Zonga, Okaka などがある。

樹木の形状: 樹高は通常30~40mであるが、条件の良いところでは60mに達することがある。直径は1~1.8mになる。板根はあまり著しくなく、せまく、うすい板根が3m程の高さにまで発達することもあるが、低く、樹幹基部のみに限られることもある。樹幹は通直、円筒形で、枝下高は20mからときに35mに達する。樹皮は赤褐色、平滑でうすい。葉は互生し、奇数羽状複葉で、9~13枚の小葉をもつ。花は径約5mmの小花で、長さ10~20cmの円錐花序に咲き、褐色の毛につつまれる。果実は長さ4~5cm、径2~3cmの五角形の蒴果で、成熟すると5裂開し、翼をもった長さ3cm、幅6mmの5個の種子を出す。

 OGATA, Ken: Useful Timbers in the Tropics (2) Okoumé

農林水産省林業試験場木材部

ガボンでは東部を除き降雨林から沿岸部のサヴァナ林にまで広く見られ、ふつうは ha 当り 1~数本程度であるが、ときには 40~50 本の高木を含む純林となる。生長の早い陽樹で二次林を形成しやすい。今日の原生林のオクメも、かつての人為の影響をうけた二次林起源のものであるという推定もなされている。しかしこのような樹木がなぜその分布域をほとんどガボンに限っているのか、他のこの地域の樹種とくらべてやや不思議でもある。



人工造林はガボンで 25,000 ha, カメルーンで 3,000 ha あり、年平均生長量は良いところでは 24 m³/ha に達している。

木材の特徴：心材は新鮮時には鮮桃色で、のち淡褐色～桃灰色～桃褐色となり、鉋削面には金色の光沢がある。辺材は幅 2~8 cm あり、灰白色～淡黄灰白色で、淡赤色を帯びることがある。肌目はやや粗、木理は交錯し、しばしばリボン杻を現わす。気乾比重 0.43 (0.32~0.59)。この他の識別上の特徴としては、孤立管孔の最大径（接線方向）は 200~250 μm, 放射組織の最大幅は 2~3 列、せんいには隔壁がある。柔組織は乏しい。放射組織にシリカを含む。水平樹脂道は存在しない。

材の加工性に関しては、乾燥は天乾、人乾とも問題なく、反りや割れは少ない。また乾燥後の寸法変化は小さい。生材から乾燥材までの収縮率としては半径方向 3.8 (2.5~5.5)%, 接線方向 5.7(4.0~7.9)% の値が出されている。軽軟材としては鋸の磨耗が早い、これはシリカを含むためであろう。また鉋削の場合毛羽立ちやすいので鋭利な刃を用いる必要がある。菌に対する抵抗性は低い。強度は比重の低い割に高く、建築造作材などの使用に耐える。

オクメは丸太の形質や材質の良さからひじょうに広い用途をもつが、中でもまともって得られること、接着性が良いことによって、主にヨーロッパで合板の最適材として用いられる。この点ラワン、メランティ(その中の最も比重が小さいもの)に似る。

熱帯西アフリカにはオクメのほかにも次のようなカンラン科の樹木があり、その一部の木材は最近わが国にも輸入されだしている。これらはいずれも東南アジアのカンラン科の木材と異なり、単一の樹種であることが特徴である。

アイエレ (Aiele: *Canarium schweinfurthii* Engl.) 熱帯西アフリカからウガンダ、タンザニアにいたる広い地域に分布。心材は灰白色～淡灰褐色～淡黄褐色。気乾比重 0.40~0.60。

オジゴ (Ozigo: *Dacryodes buettneri* (Engl.) H. J. Lam) ガボン、カメルーン、ナイジェリアに分布。心材は淡黄褐色～淡灰褐色でときに暗緑色の縞をもつ。気乾比重 0.50~0.75。